

## 第35回全国選抜高校テニス大会レポート

全国高等学校体育連盟テニス部  
常任委員 内藤 美明

開会式 3月20日(水)

朝からずっと雨が降り続き、午後3時からの開会式が室内コートに移動になるのではないかとおそれましたが、お昼前に雨が止み、センターコートで行われました。出場選手の入場行進も年々良くなってきて、今年も素晴らしい入場行進をする学校がとても多く、全国大会に相応しい開会式となりました。35回連続出場の福岡県柳川高校女子キャプテン、足立菊華さんによる素晴らしい選手宣誓で、大会が始まりました。

開会式が終わって、福岡大学附属大濠高等学校、応援指導部、クッキーズによる、歓迎アトラクションは、とても素晴らしく、拍手喝采の嵐で、明日からの熱戦が期待されました。

その後、各校のキャプテンによる抽選会が行われました。ボードに学校名を貼り付ける時に密かにガッツポーズをしたり、難しい顔をしたり、悲喜こもごもでした。しかし、自分達で引いたのだからと堂々とそしてさわやかな姿が多く見られました。



大会1日目 3月21日(木)

今日は、男女1回戦が行われました。

男子1回戦東海地区3位、静岡県浜松市立高校対関東地区4位、埼玉県川越東高校の戦いは、S1、D1、S2と一気に浜松市立高校が取りました。川越東高校は、残りのD2を7-5、S3も7-5で取りましたが、3-2で浜松市立高校が勝利しました。この一戦は、今大会の台風の目となりそうな予感がした戦いでした。

そして、九州対決となった、九州地区5位の沖縄県沖縄尚学高校と6位の鹿児島県鳳凰高校の対戦は、S1は6-1で鳳凰高校、D1は6-3で沖縄尚学高校、D2も7-5で沖縄尚学高校が取り、2-1で沖縄尚学高校が王手をかけました。そこから、D2は6-4で鳳凰高校が取り、2-2でS3に勝負が、かかりました。6-4で鳳凰高校が取り、大逆転で鳳凰高校が勝利しました。チーム一丸となった応援が印象的な戦いでした。

そして、近畿地区8位、26年振り2回目出場の和歌山県和歌山商業高校と初出場、九州地区8位の佐賀県致遠館高校の戦いは、D1のタイブレークを制した和歌山商業高校が5-0で、26年振りの勝利を勝ち取りました。

そして、近畿地区3位の大阪府大阪産業大学附属高校と中国地区2位の岡山県岡山理科大学附属高校の戦いは、S1、2を岡山理科大学附属高校、D1、2を大阪産業大学附属高校が取



って、2-2で勝利の行方はS3へかかりました。S3を7-5の大接戦で、大阪産業大学附属高校が取り、3-2の勝利。手に汗握る戦いでした。

女子1回戦、中国地区2位の岡山県岡山学芸館高校対初出場の近畿地区3位の相生学院高校の戦いは、S1、3-5のマッチポイントをしのいで7-5で勝利した相生学院高校が4-1で勝利し、今大会の台風の目となりそうな予感がしました。

そして、九州地区7位の福岡県折尾愛真高校対北信越地区2位の長野県松商学園高校の戦いは、S1、2を松商学園高校、D1、2を折尾愛真高校が取り、勝負の行方はS3にかかりました。折尾愛真高校は地元の大声援を受けて頑張りましたが、2-6で敗れ、3-2で松商学園高校が勝利しました。地元の大声援を受けて一生懸命頑張っていた姿が印象的でした。



そして、もう1つの地元、九州地区2位の福岡県柳川高校対初出場、関東地区9位の群馬県共愛学園高校の戦いは、4-1で3年振りに柳川高校が初戦を突破しました。この試合も地元の大声援を受けて、頑張っていた姿が印象的でした。

大会2日目 3月22日(金)



今日は、男女2回戦、男女共に4本シードと各地区の優勝校が登場して、ベスト16が出そろいます。

男女共に4本シード男子、近畿地区1位の兵庫県相生学院高校、関東地区1位の神奈川県湘南工科大学附属高校、同じく関東地区2位の東京都東海大学菅生高校、九州地区1位の福岡県柳川高校、女子、近畿地区1位の京都府京都市外大西高校、同じく近畿地区2位の兵庫県園田学園高校、東海地区1位の愛知県名古屋経済大学高蔵高校、関東地区1位の東京都富士見丘高校は、危なげなく、ベスト16に進出しました。

しかし、男子では、近畿地区4位の京都府東山高校が、東北地区1位の岩手県岩手高校に、東海地区3位の静岡県浜松市立高校が、北信越地区1位の長野県松商学園高校に、関東地区3位の埼玉県秀明英光高校が、四国地区1位の香川県高松北高校に、東海地区4位の三重県四日市工業高校が、北海道地区1位の札幌日本大学高校に、それぞれ勝利して、ベスト16に進出しました。

女子では、近畿地区7位の京都府同志社女子高校が、2-2からS3が、北海道地区1位の札幌日本大学高校に勝利し、ベスト16に進出しました。

そして、今大会の台風の目となりつつある近畿地区3位の兵庫県相生学院高校が、四国地区1位の香川県高松北高校に5-0で勝利し、ベスト16に進出しました。

今日は、昼過ぎから雨が降り、午後の戦いは、全て雨中の戦いとなりました。昨年までは、コート上に水が溜まり、室内コートへの移動がありましたが、今年は、インターハイが全国選抜高校テニス大会と同じ博多の森で開催されることが決定しているので、全面人

工芝を今大会前に張り替えて頂いたため、水が溜まるコートは一面も無く、監督、選手共に午後は、ずぶ濡れの戦いとなりました。

#### 大会3日目 3月23日(土)

今日は、男女3回戦、3セットマッチでベスト8進出をかけた戦いです。

男子では、昨日、北信越地区1位の長野県松商学園高校に勝った、東海地区3位の静岡県浜松市立高校が、中国地区1位の岡山県関西高校に3-0で勝利しました。

そして、四国地区1位の香川県高松北高校に勝利した、関東地区4位の埼玉県秀明英光高校が、北海道地区1位の札幌日本大学高校に勝利した、東海地区4位の三重県四日市工業高校に3-0で勝利し、両校の快進撃は続きます。

今日からは、3ポイントの打ち切りで、3-0のスコアが多い中、大接戦を演じたのは、関東地区8位の神奈川県法政大学第二高校と近畿地区2位の大阪府清風高校の戦いでした。S1、2を清風高校、D1、2を法政大学第二高校が取り、2-2でシングルス3勝負。6-2、6-2のストレートで、清風高校が勝利し、ベスト8に進出しました。



女子では、北海道地区1位の札幌日本大学高校に勝利した、近畿地区7位の京都府同志社女子高校と東北地区1位の秋田県聖霊女子短期大学附属高校に勝利した、東海地区4位の静岡県浜松市立高校が、3-2の大接戦の末、浜松市立高校が男女共にベスト8に進出しました。

初出場の九州地区1位の長崎県九州文化学園高校が、関東地区2位の埼玉県浦和学院高校に3-0で勝利して、ベスト8に進出しました。

そして、北信越地区1位の福井県仁愛女子高校が、中国地区1位の山口県野田学園高校に3-1で勝利して、ベスト8に進出しました。

また今日からは、九州国際テニスクラブで個人戦が始まりました。1、2回戦が行われ勝ち残ったのは、男子、太田代 希唯(岩手県、岩手)、鄭 直喜(鹿児島県、鳳凰)、寒川 雄太(香川県、高松北)、林 大貴(大阪府、大阪産業大学附属)、女子、上吹越有希(鹿児島県、鹿児島中央)、丹野 里佳子(北海道、札幌日本大学)、高橋 里佳(神奈川県、湘南工科大学附属)、千葉 南奈(三重県、鈴鹿)でした。

#### 大会4日目 3月24日(日)

今日は、準々決勝と準決勝が行われるという選手にとっては、決勝進出をかけた最もタフな試合が行われます。

男子でベスト4に残ったのは、東海地区1位の愛知県名古屋経済大学市邨高校に3-0で勝利した、近畿地区1位の兵庫県相生学院高校、近畿地区2位の大阪府清風高校に3-0で勝利した、九州地区1位の福岡県柳川高校、関東地区2位の東京都東海大学菅生高校に3-1で勝利した、関東地区3位の秀明英光高校、そして、関東地区1位の神奈川県湘南工科大学附属高校に3-1で勝利した、東海地区3位の静岡県浜松市立高校でした。



ノーシードで1回戦から勝ち上がった浜松市立高校の快進撃と地区大会の順位を覆す戦いをした秀明英光高校の試合は、見応えがありました。

女子では、初出場でベスト8に進出した、九州地区1位の長崎県九州文化学園高校と関東地区1位の東京都富士見丘高校の試合は、2-2でS3までもつれるという大接戦、3-2で勝利をものにしたのは、富士見丘高校でした。

そして、もう1つ大接戦を演じてくれたのは、初出場でベスト8に進出した、もう1つの学校、近畿地区3位の兵庫県相生学院高校と近畿地区1位の京都府京都外大西高校です。この試合も2-2でS3までもつれましたが、勝利をものにしたのは、相生学院高校で、初出場でベスト4に進出しました。

そして、東海地区1位の愛知県名古屋経済大学高蔵高校は、ノーシードで1回戦から快進撃を続ける東海地区4位の静岡県浜松市立高校に3-0で勝利して、ベスト4に進出しました。

そして、もう1つベスト4に勝ち上がったのは、北信越地区1位の福井県仁愛女子高校に3-0で勝利した、近畿地区1位の兵庫県園田学園高校でした。

男女準決勝は、午後から行われました。

男子では、勢いに乗る、東海地区3位の静岡県浜松市立高校、関東地区3位の埼玉県秀明英光高校に勝利した、近畿地区1位の兵庫県相生学院高校と九州地区1位の福岡県柳川高校の決勝となりました。

女子では、関東地区1位の東京都富士見丘高校が近畿地区2位の兵庫県園田学園高校に3-1で勝利し、決勝に進出しました。

もう1つは、勢いに乗る、近畿地区3位の兵庫県相生学院高校が、東海地区1位の愛知県名古屋経済大学高蔵高校に3-2の大接戦の末、決勝に進出しました。

この結果、相生学院高校のアベック優勝？そして、男子では、昨年と同じカードになったので、柳川高校の2年連続優勝？それとも、相生学院高校のリベンジ？ということになりました。

個人戦では、2回戦の残り3回戦が行われ、勝ち残ったのは、男子、永田 和輝（神奈川、法政大学第二）、鄭 直喜（鹿児島県、鳳凰）、林 大貴（大阪府、大阪産業大学附属）、柴野 晃輔（京都、東山）、女子、前田 夢佳（山口、野田学園）、丹野 里佳子（北海道、札幌日本大学）、千葉 南奈（三重県、鈴鹿）、並木 友花（千葉、東京学館船橋）でした。

大会5日目 3月25日（月）

今日は、男女団体戦の決勝戦です。

男子は、昨年と同じで、近畿地区1位の兵庫県相生学院高校と九州地区1位の福岡県柳川高校です。柳川高校の連覇か？それとも、相生学院高校のリベンジか？興味をそそる戦いです。

女子は、関東地区1位の東京都富士見丘高校と初出場の近畿地区3位の兵庫県相生学院高校です。富士見丘高校の3年振り7回目の優勝か？それとも、相生学院高校の初出場、初優勝なるか？そして、相生学院高校のアベック優勝は・・・？



男子は、室内コートを使って3面進行で行われました。最初にポイントを取ったのは、柳川高校の D1 で、6-1、6-1 のストレートで圧勝。S1 は、相生学院高校の竹元君が、ファーストセットを

6-3 で取りましたが、セカンドセット3-0 から、足に痙攣が・・・？S2 は、ファーストセット6-4 で相生学院高校の田沼君が取りましたが、セカンドセットは、柳川高校の山西君が6-4 で取り、ファイナルセットへ。その時、S1、セカンドセットはタイブレーク勝負へ突入。タイブレーク6-5 で柳川高校の河野君、セットポイント。しかし、フォアハンドストロークミスで、6-6。続く2ポイントを竹元君が取って勝利し、ポイント2-1 で、相生学院高校の王手。D2 は、ファーストセット6-3 で相生学院高校。しかし、セカンドセットは反対に柳川高校が6-3 で取り、ファイナルセットに突入。ファイナルセットも大接戦で6-6 のタイブレークに突入。タイブレーク7-2 で柳川高校が勝利して、ポイント2-2 で勝負の行方は、S3 へ。S3、ファーストセットは、6-4 で相生学院高校の加藤君が取り、セカンドセットも6-3 で加藤君が取って、ポイント3-2 で、相生学院高校が、昨年のリベンジを果たし、2年振り、2回目の優勝となりました。



女子は、1、2、3番コートを使って、3面進行で行われました。S1 は、富士見丘高校の細沼さんが相生学院高校の観音堂さんに6-0、6-1 で、D1 も富士見丘高校が6-1、6-2 の圧勝。しかし、ポイント0-2 の劣勢の相生学院高校は、S2 をファイナルセット6-1 で取り、ポイント1-2 として、D2 もファーストセットをタイブレークの7-2 で取り、セカンドセット5-2 でリード。S3 に勝負をかけていましたが、D2 が、セカンドセット2-5 から3-5 へ追い上げた富士見丘高校のS3 の江見さんが6-2、6-2 で、相生学院のS3 の森さんに勝利して、富士見丘高校の3年振り、7回目の優勝が決まりました。



相生学院高校のアベック優勝は、夢と消えましたが、相生学院女子の初出場での準優勝は、素晴らしいです。

個人戦は、ベスト4 が出ました。

男子、竹元 佑亮（兵庫、相生学院）、三好 健太（埼玉、秀明英光）、林 大貴（大阪府、大阪産業大学附属）、河野 優平（福岡、柳川）、女子、観音堂 万友（兵庫、相生学院）、前田 夢佳（山口、野田学園）、山口 真琴（長崎、九州文化学園）、細沼 千紗（東京、富士見丘）でした。明日は、US オープン予選出場をかけた熱い戦いを期待します。

大会6日目 3月26日（火）

今日は、US オープン予選出場をかけた熱い戦いが、九州国際テニスクラブのハードコートで行われました。

男子シングルス準決勝、福岡県柳川高校、河野優平君と1回戦から勝ち上がってきた、



大阪府大阪産業大学附属高校、林大貴君の試合は、6-1、6-1で林君の圧勝。もう1つの準決勝、兵庫県相生学院高校、竹元佑亮君と埼玉県秀明英光高校、三好健太君の試合は、ファイナルセット、タイブレークにもつれ込む大接戦。タイブレーク6-5で、竹元君のマッチポイント。しかし、ボールがネットに当

たり、コードボールは、無情にも自分のコートへ落ちて、タイブレーク6-6。そこから、三好君が2ポイント連取して、大接戦の末、勝利しました。決勝戦もセットオールでファイナルセットへ突入。ファイナルセット、1ブレークアップの三好君が5-3のマッチゲーム。マッチポイントを取った三好君が、両手を挙げ、USオープン予選出場が決まりました。



女子は、昨日の団体戦決勝を戦った、兵庫県相生学院高校、観音寺万友さんと東京都富士見丘高校、細沼千紗さんが準決勝で友に敗れたため、女子決勝戦は、山口県野田学園高校、前田夢佳さんと長崎県九州文化学園高校、山口真琴さんの戦いになりました。

前田さんがファーストセットを6-4で取り、セカンドセット5-4、0-40から山口さん3本連続ミスでデュース。そして、アドバンテージ・サーバー前田、マッチポイントでセンターへエース級のファーストサーブ。しかし、山口さんの素晴らしいリターンエースで再びデュース。しかし、山口さんのリターンミスで、前田さんの2回目のマッチポイント。両者きわどいコースへのストロークの応酬。6回目のラリーで山口さんのバックハンドストロークが無情にもネットに突き刺さり、前田さんの優勝が決まりました。



今大会は、団体戦も個人戦もどのチーム、誰が優勝するのか解らない大混戦だったような気がします。連日、どの試合も熱い感動を見る者に与えてくれた戦いが多かったと思います。これは、大会を陰で支えて下さった大会関係者の方々と補助員の生徒達の素晴らしい働きがあったからだと思います。そして、明日からは、次の戦い。インターハイで再び、この福岡の地での熱い戦いを期待して、大会レポートを終わります。

